

東大まちづくり大学院 都市デザイン演習（まちづくり演習第2）  
2016 春

パブリックライフ／パブリックスペース スタジオ  
—観察をベースとした公共空間の診断と改善の提案—

■担当

【主担当】 中島直人

【副担当】 鈴木俊治（ハーツ環境デザイン）・高松誠治（スペースシンタクスジャパン）

■期間

2016年4月2日～5月7日

毎週土曜日3限～5限（13時～18時10分）全6回

■対象

まちづくり大学院修士

（グループは基本3名で構成、合計6グループを予定）

■課題

「（例えば2020年頃を目標として）東京に豊かな公共空間を生み出すためにできることは何か」

駅前広場では、人々は一体何をしているのだろうか（現在の「広場」はどうあるのか）。

駅前広場は真に「広場」たりえるのだろうか（そもそも「広場」とは何だろうか）。

現状を観察、分析したうえで、考察を加え、提案を行う。

■狙い

- ・都市デザイン、都市計画の基礎としての都市空間と人間行動の関係性について知見を深める。
- ・都市空間における人間行動を記録、分析、表現するための観察に基づく基本的な技術や視点を身に着ける。
- ・具体的なまち、公共空間においてデータに基づいた課題の抽出、改善の提案という一連の計画・デザインの流れを体験する。
- ・近年、歩行者空間化されつつある駅前広場におけるアクティビティの可能性を検討する。

■対象地

- ・下記の3駅を含む駅の駅前広場およびその周辺の公共空間（対象駅については初回 に提示する）



秋葉原駅（電気街口）



新橋駅（西口）



有楽町駅（東口）

## ■スケジュール

—4月2日 中島

- ・課題説明
- ・レクチャー①「公共空間の再編 パブリックライフ研究の系譜と都市政策としての実践を中心として」(中島)
- ・【現地見学】(現況の観察によって、空間、人間の行動の特徴、課題を大まかに把握する)

—4月9日 中島、鈴木、高松

- ・レクチャー②「アクティビティを生む公共空間デザイン」(鈴木)、レクチャー③「公共空間の調査手法」(高松)
- ・【現地見学】の成果共有とディスカッション(図面、ポストイットなどを使って、現地見学の成果を整理する)
- ・【一次調査】の計画(班ごとに調査内容を固める)

—4月16日 中島 ※集合は現地。調査を終え次第、大学へ

- ・【一次調査】の実施(空間と人間の行動の関係について考察するためのデータをとること)
- ・【一次調査】結果の解釈と議論

—4月23日 中島、鈴木、高松

- ・【中間発表】 【一次調査】の成果と提案の方向性について発表し、共有
- ・【二次調査】の計画(提案の方向性や提案を意識した追加調査のためのディスカッション)

—4月30日 中島 ※必ずしもこの日に実施しなくてもよい

- ・【二次調査】の実施
- ・グループごとの二次調査結果の解釈、改良、改善の提案の導出
- ・プレゼンテーションの準備

—5月7日 中島、鈴木、高松

- ・【最終発表】  
※要求成果物
  - ・公共空間の現況理解と改善のためのレポート(A4横使い、10~20枚程度)⇒そのまま発表で使えるように、イラストレーターやパワーポイントを使ってレイアウトする。
- ・【まとめ】今後の駅前広場、公共空間のありかたについてのディスカッション

## ■成績評価

基本的に最終成果物の出来栄で判定するが、途中段階での参加度合も考慮に入れる。

## ■主な参考文献

- ・Jan Gehl and Birgitte Svarre, *How To Study Public Life*, Island Press, 2013
- ・プロジェクト・フォー・パブリックスペース、『オープンスペースを魅力的にする』、学芸出版社、2005年
- ・『賑わいづくり施策発見マニュアル』、国総研都市施設研究室、2014年